リングリング
プロジェクトを
訪ねて⑦

全国の愛犬家に犬との上手な暮らし方を伝える

# 「特定非営利活動法人 ワンワンパーティクラブ」

ペットブームと言われる昨今。とくに犬の人気は高く、公園やカフェなどでも犬連れの人の姿を多く目にする。しかし、微笑ましいその光景の裏に、捨て犬や近隣トラブルなどの問題があることも見逃せない。

「特定非営利活動法人ワンワンパーティクラブ」は１９９４年、草の根的な集まりから始まり、２００１年にＮＰＯ法人化。現在まで、イベントなどを通じ、愛犬との上手な暮らし方を伝えるための活動を続けている。代表の三浦健太さんに、立ち上げの理由を尋ねた。

「犬を殺させないためというのが、目的の一つにありました。当時で年間約60万頭、現在でも11万頭ほどの犬が処分されていますが、犬が吠えたり噛んだりするので捨てるという人も大勢います。そこで、捨てないための飼い方を指導していきたいと考えたことがきっかけです」

「全国一斉！ クリーン作戦」に参加したボランティアの方々。愛犬を連れて来られる方も。

マナーブックとウンチ袋のセットは、町中や公園、動物病院や狂犬病会場などさまざまな場所で、犬連れの方に手渡しされている。

アウトドアプランナーであった三浦さんは、仕事柄、犬を連れて旅する機会も多く、そこで犬と快適に暮らすためのノウハウを培ったという。そして１９９４年、その知識を伝えてほしいという知り合いからの頼みもあり、１２０家族を対象に、楽しみながら犬の飼い方を知ってもらう『第1回ワンワンパーティ』を開催。その後、このイベントは活動のベースともなり、この15年ほどで開いた数は全国で３００回近くに。現在は、数十人単位のものから7万人が来場する大規模なものまで、様々なイベントを手がけている。

「会場では、飼い主さんと一緒にスポーツやゲームをしたり、誰とでも、どの犬とでも穏やかに接することのできる犬などを見て、触っていただけるようにしています」



これには、『きちんとした知識があれば社会と協調できる犬を育てられる』ことに気づいてもらいたいという思いがあるそう。さらにワンワンパーティクラブでは、マナー啓発活動にも熱心に取り組んでいる。

「犬の数は年々増加していますし、飼い主さんが愛犬を連れて出歩く機会は増え、社会との接点も多くなりました。しかし、その分トラブルも増えてしまっています。迷惑行為をしなければ愛犬も周りから好かれ、すべてが良い方向に向かうと思うのですが……。実は、ペットショップで目が合ったからなどと、衝動買いに近い感覚で、生き物を飼う準備がないままに飼い始める方も大勢います。皆さん愛情はあるけれど情報が足りていない、と感じますね」

そこで、ワンワンパーティクラブでは、飼い方の基本やマナーをまとめたマナーブックとウンチ袋を配布するマナー啓発キャンペーン「全国一斉！ クリーン作戦」を毎年春に実施している。昨年は、２００以上の自治体と１００超の動物病院、そして４０００名以上のボランティア員の協力を得て、１００万部を配布。

「知らない人にマナーを伝えるほか、わかっているけどやっている人に止めてもらうことも重要になります。そこで、近所での相互監視力も考え、犬を連れている方に直接手渡しするようにしています」

さらに終了後は、参加団体や個人の一覧や活動の様子、収支報告などをまとめた報告書を、かかわったすべての人に送付しているという。

「数年前から自治体などからの申し込みも急増しており、部数の拡大が課題となっていました。そんな中、ポスターとマナーブック、ウンチ袋の制作費をＪＫＡさんから支援いただけたおかげで、１００万部以上を配れる体制を整えることができました。今後は、この勢いに乗り、セミナーの実施などより実践的な活動も併せて行っていきたいと思います」

ここ数年、犬のいる社会へ行政も本格的に取り組み始めていることを実感しているという三浦さん。

「犬の特性を考えると、犬と上手に暮らすことは、環境保護、また子育てや老後の生きがいなどにも良い効果をもたらすと思います。私たちは、一人でも多くの方に飼い方やマナーを伝えていきたいと考えています」

ワンワンパーティクラブでは今後、国や自治体、企業などとも連携し、活動の幅を広げていくそうだ。

（文・長谷川英子）

近所の公園に出向き、散歩中の飼い主にマナーの大切さを呼びかけるボランティア員

小冊子には、迷惑オシッコの避け方などすぐに実践できるアドバイスが盛り込まれている

## 競輪マークみつけた

〈エクゥエート富良野〉

富良野市の社会福祉法人エクゥエート富良野が運営している自立支援サービス事業所「ラベンダーの郷」は、富良野障害者福祉圏域の精神障害者の日中支援活動の拠点として1日平均40名が利用している。

事業のメインはパン製造で、天然酵母・道産小麦１００％、無添加パンは地域住民から強い指示を得ており、また学校給食パンにも採用され、食の安全・安心に貢献するなど地域密着型施設である。

通所者も製造したパンが生徒の食生活の一助になっていることに誇りを抱き社会復帰の意欲を新たにしている。

「想いが、つながる　笑顔が、生まれる」競輪・オートレースの補助事業「RING!RING!プロジェクト」http://ringring-keirin.jp/